

I - 1 計画地の特性

(3) 魅力資源と庭園利用

1) 通年の魅力資源(眺望等)

本庭園にある魅力資源のうち眺望や水面、特徴的な施設等季節を問わず魅力を発揮しているものを抽出した。

これらの魅力資源の多くは、計画地の立地や地形、本館を含めた空間構成等を十分考慮して配置されたもので、本庭園の基本的な構成となっている。



①芝地・太鼓橋・池の眺め



写真: 本館ポーチから見る芝地



写真: 瓢箪池と芝地



写真: 本館ポーチから見る太鼓橋

I - 1 計画地の特性

②若草山への眺望

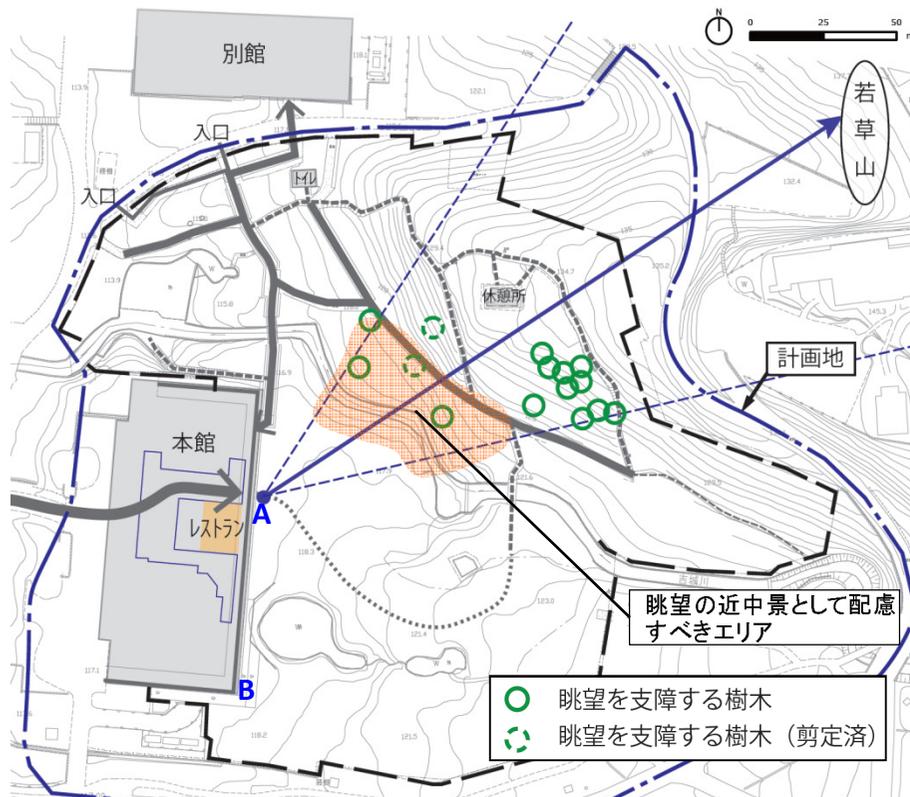
- ・旧公会堂内部から見られた若草山への眺望は、建替整備により建築内部からの眺望は失われた。また現庭園は、眺望点が移動したため眺望の条件が厳しくなった。
- ・現庭園の南部分は旧公会堂庭園を継承しており、若草山への眺望は景観構成要素として重要である。
- ・現在、庭園から若草山への眺望は尾根部の高木が生長し大きく阻害されている。一部剪定が実施され眺望は幾分回復しているが十分ではない。



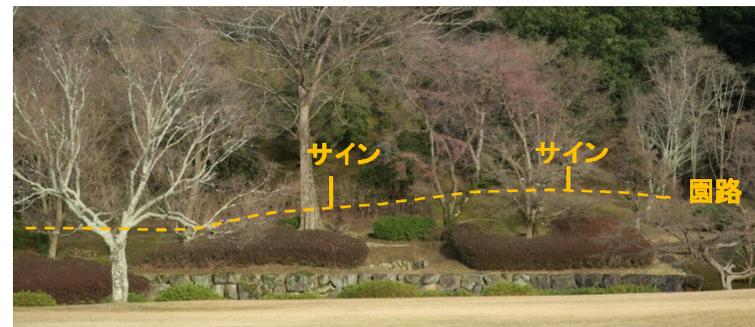
写真：レストラン前ポーチから若草山に向けての眺望 地点A



写真：庭園の南西から若草山に向けての眺望 地点B



図：魅刀資源 若草山への眺望と課題



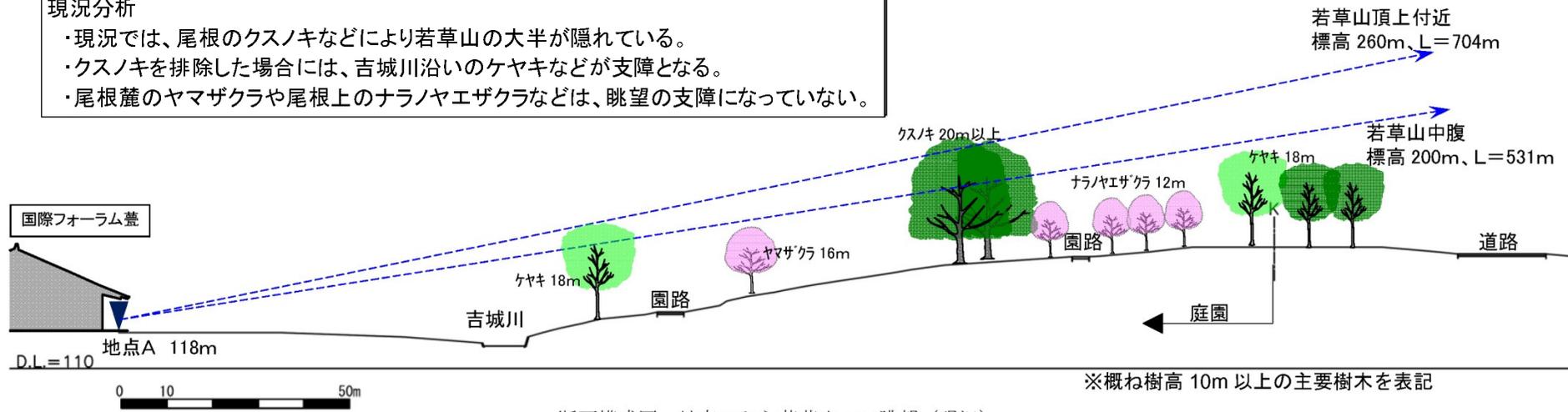
写真：落葉期は近中景に園路やサインが透けて見える。(左図オレンジ部は写真と対応)
⇒この区間の園路附近植栽は取り扱いに注意が必要。

I-1 計画地の特性

若草山への眺望 断面検討

現況分析

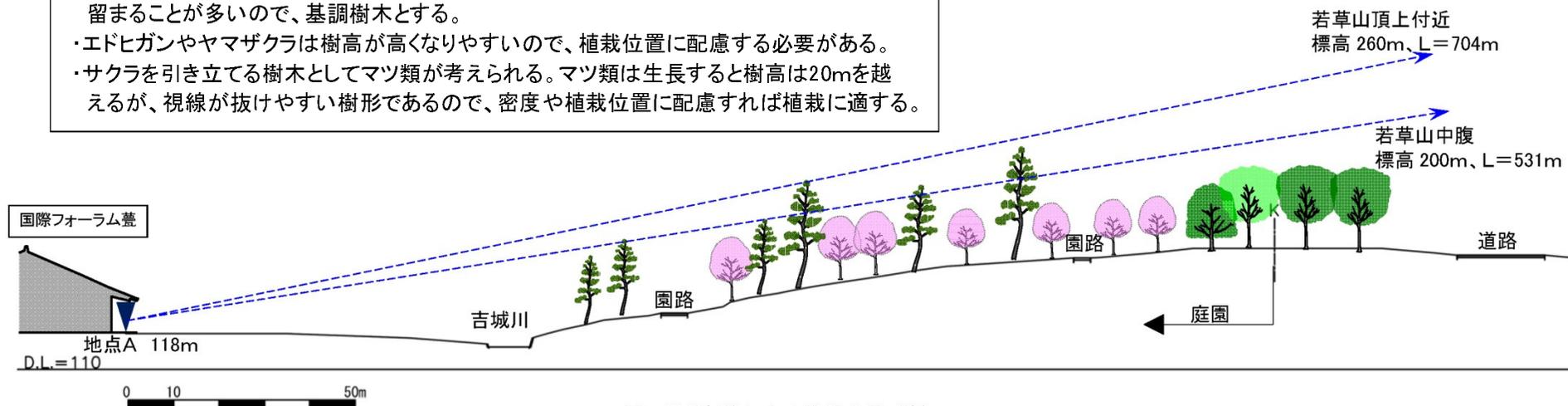
- ・現況では、尾根のクスノキなどにより若草山の大半が隠れている。
- ・クスノキを排除した場合には、吉城川沿いのケヤキなどが支障となる。
- ・尾根麓のヤマザクラや尾根上のナラノエザクラなどは、眺望の支障になっていない。



断面構成図：地点Aから若草山への眺望（現況）

眺望確保(案)

- ・ナラノエザクラやナラノココノエザクラなどは生長が遅く、生長しても樹高15m程度で留まることが多いので、基調樹木とする。
- ・エドヒガンやヤマザクラは樹高が高くなりやすいので、植栽位置に配慮する必要がある。
- ・サクラを引き立てる樹木としてマツ類が考えられる。マツ類は生長すると樹高は20mを越えるが、視線が抜けやすい樹形であるので、密度や植栽位置に配慮すれば植栽に適する。



図：樹種転換による眺望確保（案）